

小宮 木代良（日本史学）

## 江戸幕府の日記と儀礼資料

本論文は、江戸幕府史料のうち、『徳川実紀』『幕府右筆所日記』等の重要な日記記録と儀礼史料について史料学的検討を行ったものである。従来は使用されるだけであった江戸幕府史料を、その成立・伝来について本格的に検討した重要な研究と位置づけられる。

第一部「江戸幕府右筆所日記と徳川実紀」では、『徳川実紀』と「幕府右筆所日記」の関係を中心に究明している。第一章「『徳川実紀』引用「日記」の検討」では、『徳川実紀』に引用された「日記」とは、宝永元年に幕府書物方へ保管された右筆所日記にあたることを明らかにし、その伝写本が流布していく過程についても明らかにした。第二章「江戸幕府右筆所日記」作成過程の検討」では、右筆所日記の作成過程を詳細に分析し、こうした記録作成行為自体が政治儀礼的な意味を持つものであったことを明らかにした。

第三章「家綱将軍初期における幕府記録類について」では、家綱将軍初期部分についての『徳川実紀』の編纂過程に注目して、記録伝存の画期とされる明暦大火前後の種々の幕府記録類の分析を行った。第四章「『徳川実紀』の作成過程と幕府記録」では、『徳川実紀』の作成過程全体を分析し、同時期の東アジアにおける官撰実録である『朝鮮王朝実録』とも比較しながら、その特色について究明した。

第五章「家光政権の研究と「江戸幕府右筆所日記」」では、『徳川実紀』が、江戸幕府政治史研究に与えてきた影響を通観し、家光期の政治的出来事について、右筆所日記の記事とその『徳川実紀』の引用後の表記が意図的に変えられていることを明らかにした。

第二部「幕府儀礼史料の分析」では、幕府儀礼史料のうち、書札礼関係、武家官位関係、殿中儀礼関係のものについて検討した。

第六章「江戸幕府書札礼におけるいわゆる「下馬札」伝授について」では、幕府右筆の書札礼書である曾我流書札礼書に下馬札を中心とした故実が強く関係付けられていることの背景を究明した。第七章「曾我流書札礼諸本と「書札法式」について」では、近世初期の武家書札礼書諸本を整理するとともに、その中から最も基本的なテキストである「書札法式」を析出した。第八章「近世前期における将軍宛披露状の書札礼について」では、七章で検討した書札礼書群をもとに、中世末から近世前期にかけての将軍宛披露状の書札礼の変化について究明した。

第九章「武家補任」について」では、近世武家儀礼の重要な指標となっている武家官位について、その基本史料である「武家補任」の成立と伝来についての検討を行い、第十章「近世武家政治社会形成期における儀礼について」では、近世初期から寛文期に至る武家の儀礼的行為の特色と変化を、武家官位、石高、その他の指標を媒介として究明した。

以上のように、本論文は、江戸幕府の日記と儀礼史料に関して、初めて本格的な史料学的検討を行ったものであり、本研究の成果を基礎にして、新たな江戸幕府像の検討が可能となる貴重な成果といえることができる。

以上のことから、本調査委員会は本論文の提出者が博士（文学）の学位が授与されるに十分な能力をもつものであると認めるものである。